

単元名 「中国・四国地方」

地理的分野 C 日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域

1 単元の目標

- ・中国・四国地方について、自然環境の特徴が人々の生活および産業に影響を与えていることを理解する。
- ・人口や都市・村落を中核とした考察で、都市部と山間部や離島との間で見られる人口偏在や、そこで生じている課題を理解する。
- ・中国・四国地方において、地域の広がりや各地域内の結び付きや人々の対応に着目して、地域の特色に応じた地域づくりがどのように進められているのかを、多面的・多角的に考し、表現する。
- ・中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・都市部と山間部や離島との間でみられる人口偏在や、それぞれの地域では特色ある地域づくりに向けた取組があることを理解している。・中国・四国地方の特色のある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。	<ul style="list-style-type: none">・人口減少・人口の偏在が見られる中で、地域づくりの取組が、どのように進められているのかを、都市部と山間部・離島の地域の広がりや各地域内の結び付きに着目して、特色ある自然環境や産業の様子、そこでの人口の偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	<ul style="list-style-type: none">・中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

3 単元について

本単元は、各地方の事象間の関連を考察することで地域の特色をつかませ、それぞれの地域の地理的事象や事柄を他の事象と有機的に関連付けて追究する活動を通して、日本の諸地域の地域的特色をとらえさせることを主なねらいとしている。

各地方の構成は、それぞれ、生活の舞台となる自然環境、人口や産業の特色、交通や歴史的背景など、各地方の中核とする考察の視点から追究する学習や振り返りの学習という構成となっており、地域間や事象間のつながりを確認し、最終的には地域的な特色のまとめを通して課題解決につなげていきたい。

今回取り扱う「中国・四国地方」では「都市と農村の変化と人々の暮らし」に着目し、都市と農村の変化を人々の生活や産業などと関連付けて考察させること、並びに過疎・過密地域のかかえる問題を具体的にとらえ、中国・四国地方の自然や人々の暮らし、都市と農村の変化を大観しながら

ら、人口の偏りに気付き、その原因や対策をとらえながら地域の特色を見付け出し、自分たちの生活する地域との比較ができるように学習を進めていきたい。



単元における問いの構造

<p>【単元を貫く問い】 この地域の特色は何か？ 自然環境が、人々の生活に関わっていることを理解し、地域の課題と特色を理解させる。</p>
<p>【第一次の問い】 「どんな地域なのか予想を立てよう」 山地と雨温図から、どのような地域なのかの予想を立てる。</p>
<p>【第二次の問い】 「どんな地域なのか検証しよう」 各県の農作物を確認することで、予想が正しかったのか確認する。</p>
<p>【第三次の問い】 「課題と対策を考察しよう」 交通手段の発達による移動時間の短縮により、人口集中と過疎が加速したことを学習する。</p>
<p>【第四次の問い】 「活路を考えよう」 観光による地域の活性化に取り組む様子から、自分たちの地域の課題について考えさせる。</p>

4 指導と評価の計画

次	主な学習活動	評価規準
1	自然環境・・・地形や気候からこの地域の特色を予想する。	●知識・理解
2	農業から見えてくる特色・・・各県の農作物から地域を考える。	●思考・判断・表現
3	交通網と人々の生活・・・過密と過疎の一因であることを理解する。	●思考・判断・表現
4	観光客を呼ぶ取り組み・・・その地域の取組を自分の地域に生かす。	●主体的態度

●「学習改善につなげる評価」



5 本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点
<p>○地図帳を見て予想を立てる 問1：どんな地域だと思う？</p>	<p>・生徒から予想が出てこなければ、九州の地図と比較し、方向付けをする。</p>
<p>○検証する 「農作物のプリント」を配付し「どこの県か」予想 問2：農業が盛んな地域だろうか？</p>	<p>・個人→グループで話し合い、選んだ根拠を示させる。 ・各県の農作物で共通しているものを見つけ出し、考察する。</p>
<p>○「耕作放棄地のグラフ」を提示 問3：これはどんなグラフ？</p>	<p>・グラフにある「ha」に着目し、土地の広さについてのグラフであることを示す。</p>
<p>○農業従事者が減少していること、またこの地方の「過疎」に気付かせる。 「総務省過疎分布図」を提示</p>	<p>・「過疎」の問題点をあげる ・農業の課題を確認</p>

6 授業と評価の一体化に向けて（授業改善のポイント）

日本の諸地域の学習を通して「学習のまとめシート（※「学びの地図」と同意の教材）」を使い、小単元（各地方）が終わるごとにまとめの時間を取るように設定した。まとめシートの記述に関しては、まず授業の内容からポイントとなるキーワードをメモとして残し、それを基にその地方のまとめを文章で表現するようにした。今回、このシートを学年全員に使ってみたが、ほとんどの生徒は箇条書きで書くにとどまっておき、文章にすることはできていないように感じた。これは、今後の授業を進めていく上での私自身の課題だと思っている。また、日本の諸地域の授業をしていく中で、各地方の気候と農業に関しては意識して丁寧に授業を進めたこともあり、後半の関東地方以降の学習の際には、既習の知識を使って答えられる生徒が随分増えてきたように感じている。

授業を作る中で、前述した「単元における問いの構造」を考えておくことが非常に重要だだと思っている。目標を達成するために、この授業では何を押さえておかなければならないのか、そのポイントが押さえられているかどうかを知るために、「学習のまとめシート」を使い、自分（教師）にフィードバックする、というサイクルは授業と評価の一体化に必要な取組だと考える。今後も生徒自身に授業の振り返りをさせるとともに、教師が重点化したポイントが正しく伝わっているかを振り返る材料としていきたい。

授業ワークシート

学習のまとめシート **ポイント 3**

学習のまとめシート				新 橋 武 志		
①授業を振り返り、キーワードなどものを記録しておく ②問いを記入 ③まとめた文章で記入 ④発表						
九州	中国・四国	近畿	中部	関東	東北	北海道

7 まとめ

地理の内容の理解には、他の地域との比較が必要だと考えている。そのため、地域ごとの特徴（気候・農業・工業など）の比較ができるようなまとめシートを作成してみたが、各地方ごと注目するポイント（例：九州地方では自然環境など）があるため、シートの記述量に差が出てくるが、多くの生徒は同じ量を書かないといけないと思い、教科書から一生懸命抜き出そうとしていたが、そういうものではないと何度も説明した。また、このまとめシートの記入に時間がとられるので、単元を終えるのに予定よりも時間がかかってしまった。今後、まとめの時間を確保するための単元構成を考えていくか、家庭学習の中でまとめの時間を作っていくように指導するかは考えていく必要があると思っている。

ポイント 3

「学習のまとめシート」への生徒の記入例

<p>地理</p> <p>気候</p> <p>農業</p> <p>工業</p> <p>交通</p> <p>人口</p> <p>都市</p> <p>自然環境</p> <p>社会問題</p>	<p>瀬戸内海沿岸</p> <p>瀬戸内海沿岸</p> <p>瀬戸内海沿岸</p> <p>瀬戸内海沿岸</p> <p>瀬戸内海沿岸</p> <p>瀬戸内海沿岸</p> <p>瀬戸内海沿岸</p>			
---	---	---	---	---

<p>全国トップ75%を占める稲作と畜産(牛・豚)は、稲作は温暖な気候、畜産は冬の寒さを利用している。</p> <p>平野 - 稲作栽培</p> <p>山岳地帯</p> <p>交通技術</p> <p>自動車</p> <p>道路</p> <p>自動車</p>	<p>平野部は稲作の中心地。稲作は温暖な気候を利用している。稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p>	<p>山岳地帯は稲作が難しい。稲作は温暖な気候を利用している。稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>山岳地帯は稲作が難しい。稲作は温暖な気候を利用している。稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>山岳地帯は稲作が難しい。稲作は温暖な気候を利用している。稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>山岳地帯は稲作が難しい。稲作は温暖な気候を利用している。稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>山岳地帯は稲作が難しい。稲作は温暖な気候を利用している。稲作は冬の寒さを利用している。</p>
--	---	--

<p>暖流や海の影響を受け、冬は温暖な地域。稲作は温暖な気候を利用している。稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p>	<p>中国・四国地方は九州と比べ平野部が少ない。稲作は温暖な気候を利用している。稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p>	<p>近畿地方は他の地方と比べて稲作が盛ん。稲作は温暖な気候を利用している。稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p>	<p>中部地方は飛騨・濃尾平野が稲作の中心地。稲作は温暖な気候を利用している。稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p>	<p>関東地方は他の地方と比べて稲作が盛ん。稲作は温暖な気候を利用している。稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p> <p>稲作は冬の寒さを利用している。</p>
---	---	---	--	---